

# Bangladesh の水供給困難地域における 安全な水利用のための環境教育

活動地域  Bangladesh

ひろげる助成

3年目

実践

環境教育関連事業参加 **1,308人**

維持管理支援による  
給水施設の利用 **4,580人**

今年度計画の達成度 **80%**

全体計画の達成度 **70%**



中学生が小学生にヒ素検査方法を教えている

## 苦勞した点と工夫した点

### ■ 苦勞した点

新型コロナウイルスの影響により学校が約2年間閉鎖されたため、学校関係の活動が最後の1年間に集約して実施することになり、多くの変更を余儀なくされた。

### ■ 工夫した点

- 移動の制約時には電話での情報収集や、オンラインでの情報共有を行った
- 中学生の力が小学生に大きく影響した
- 優良維持管理給水施設の利用者組合を表彰した

## 課題

Bangladesh の水供給困難地域で、住民主体の安全な水供給を実現するために、子どもたちが主体的にかかわる実践活動、環境教育モデルの普及、調査・分析・広報活動を行う。

## 目標

住民主体の安全な水利用の実現が上位目標であり、学校での環境教育はそのための手段と位置付けている。

## 活動内容と成果

研修を受けた教員が指導する水利用啓発セミナーに、ヒ素汚染地域の中学校5校(406人)、塩水化地域の中学校5校(355人)が参加し、80%以上の生徒が安全な水利用について理解した。ヒ素汚染地域の小学校5校(344人)対象の水利用啓発セミナーに中学生が参加し、小学生の理解を助けた。両地域でのワークショップに生徒・教員・住民・行政等合計61人が参加した。両地域で21か所合計921世帯4,580人に給水支援を実施し安全な水を供給できた。学校関係者、地域住民へのエンドライン調査を実施し成果を確認した。



小学校での水利用啓発セミナー風景

## 全助成期間の活動を振り返って

3年間の活動の中では、研修を受けた教員の主体的な水利用啓発セミナーへの取組みと、中学生が活躍した小学校での啓発セミナーの成功、そして再稼働した給水施設へのモニタリングによって住民の主体的な維持管理が継続できたことが大きな成果だった。しかし他地域への普及や行政への働きかけ等、新型コロナウイルスの影響で達成できない課題が多く残った。困難な状況下でも現地地で活動を支えてくれた現地 NGO に感謝したい。



利用者組合による給水施設の洗浄作業

〒350-2201  
埼玉県鶴ヶ島市富士見4-2-7-306

## 今後の展望

給水施設利用者の安全な水への意識が向上しても、給水施設の持続的維持管理のためには行政の協力が必要である。地域住民、学校の教員・生徒、行政、現地 NGO の連携ができ、住民主体の給水施設の維持管理が持続できるような仕組みができるように、地域の給水施設と、取組みを始めた各学校に地道な働きかけを続けていく。

